

2023（令和5）年度 第2回伊賀市図書館協議会議事録

開催日時：2023（令和5）年11月28日（火） 午後2時～3時50分

開催場所：上野図書館 2階 視聴覚室

出席委員：柴田会長、石橋副会長、岡澤委員、喜多田委員、田邊委員、中森委員、東谷委員、福田委員

事務局：谷口教育長、滝川事務局長、東社会教育推進監、小林上野図書館長、中田主幹、村田主任、大矢主任

1. 委員の委嘱について

2. あいさつ

挨拶：谷口教育長

3. 会長・副会長選出について

会長：柴田委員

副会長：石橋委員

4. 議事

会長の提案により議題「（1）伊賀市新図書館の進捗状況について（経過報告）」を「（3）阿山図書室の対応について」の後に順番を変更した。

（2）

—事務局より資料2「いがまち図書室の開館について」を説明—

会 長：はいありがとうございます。新しくできたこの図書館に関してご説明いただきましたけれども、何かご質問ございますか。

委 員：すみません。

会 長：どうぞ。

委 員：私はお話ボランティアちいさなねこで、上野図書館で活動しています。チクチクでも活動しています。新しいいがまちの図書館を見て、今後の伊賀市の分室が少なくなるという流れの中で、このいがまちの図書館が出来たわけですが、さっそく見にいったら、今までのいがまち図書室は血の通った、司書さんが季節に応じたレイアウトとか、今の子どもたちに今の時期、これを読んだらどうといういろいろな壁画があり、あたたかい図書室だったと思うんです。私たちが読み聞かせをするにあたってはいろんな図書館、図書室に行って本を選んでくるのですが、上野図書館はもちろんですが、小さな分室もとても利用しています。それぞれにとってもいい特徴があり、好きな分室の一つが、いがまち図書室だったので。新しい図書館になり、とてもスタイリッシュで、カフェも併設されて、伊賀にはない都会的な雰囲気はすごく解るのですが、いざ本を借りに行くとなると。後の新図書館でも質問をしようと思っていたのですが、書棚は全て既製の同じところになっていて、非常に整然と並べられている。森精機の書架は専門書もあつ

て、とても魅力的な、普段私たちが見ることもできないような素敵な本があり、カフェを飲みながら霊山を見ることができいい空間ができたと喜んでいてすけれども、ああいう書棚とかあのような設置に関しては司書さんの思いとか上野図書館の方の思いとかは入っているのでしょうか。そのあたりを聞きたいと思います。

事務局：失礼します。今いただきましたご意見の中で、既製の棚ですとか、温かみが前はあったけれど、きれいだけれども前のような温かみがないというご意見かと思えます。まず棚ですが、設計の段階で市の担当者と司書の意見も加えながら DMG 森精機と協議を重ねましたので、市の図書館の在り方についてはきちんと伝えていきます。結果、同じような棚の幅になってしまいましたが、今後、温かみのない図書館にならないように工夫をしながらレイアウトを考えていこうとしているところです。今は今月6日にオープンしたところでまだ追いついていないところがありますが、今後、公共の図書館としての役割を果たしていきたいと考えています。

委員：さっそく本を借りてきましたが、いがまち図書室はたくさん大型絵本がありますが、大型絵本が棚に横にしか並べられず、見ることも引き出すことも取り出すこともできない状態です。コロナ過の中で大型絵本の活躍はとても大きかったので、私たちはいろんな図書館に行く中で、大型絵本等の位置づけをその図書館がどのようにしているかを見てくるのですが、とても残念でなりません。それで、お話をどこでするのかとかは新図書館にも関係してくるのですが、暗さ、とても暗いといいますか、まあクリアはされていると思うのですが、借りに行く時、どこで借りたらいいのかとか。市の職員はいるのかなと思いつつ、結局コーヒーのカウンターのところで手続きをしましたが、そういうこともどこにも書いていないし、よく図書館に行く私でさえも非常に迷ったので、図書館をあまり利用されない方はとても迷われるのではないかと危惧しました。以上です。

事務局：ありがとうございます。受けましたご意見は今後の運営において改善できるところは改善していきたいと思えます。今後の参考にさせていただきます。

会長：はい、ありがとうございます。新しい図書館というのはどこでもね、最初のうちはできてなくて、みなさんがいろいろな意見を言う中で直っていくという面もありますので、良くしていくためにみなさん方も、これからはいがまちの図書館を使っていただきたいと思いますと考えますが、他の方いかがでしょう。

委員：いいですか。

会長：どうぞ。

委員：当初の説明の中で、ここの受付業務は DMG 森精機で担っていただいているということですが、市の職員は配置していないということですか。

事務局：はい。市の職員は配置しておりません。受付業務と図書業務を業務委託として DMG 森精機へ委託しております。

委員：はい。ありがとうございます。そうしたら、DMG 森精機の受付業務をしている

方は、司書とまでは言わないですが、しっかりと図書館業務を理解している方がしているという認識で良いですか。

事務局：はい。司書の資格をお持ちの方、有資格者を配置していただいています。開館時間が長くなっており、シフト勤務で時間差勤務をされているので、その中で全ての方が司書の資格を持っているとはいかないかもしれませんが、司書資格のある方を採用して図書館業務にあたっていただいています。

委員：それはDMG森精機がやってくれているということ。

事務局：はい、そうです。

委員：もう一つ、今出ていた各図書室の企画等に対して、DMG森精機の意見というのものもあるでしょうけれど、やっぱり図書館っていうのはここで決めて、市がちゃんとやっていくと決まっている以上は、しっかりとこちらの意見を通せるような関係性を築いていただくようお願いしたいと思います。読み聞かせ会等の企画ももしするのであれば、横に市の支所もありますね。そこにはそういう部屋はあるのですか。

事務局：伊賀支所ですね。伊賀支所には2階に会議室がありますが、貸館という形で例えばお話し会等をする予定の会議室ではないようです。ただ先ほどの建物の説明の中にありました、いがまち図書室の1階がオープンスペースになっており、ソファとかテーブル、椅子があります。それを並べ替えてオープンスペースでお話の会や読み聞かせ会をできるように設計をされているので、その場所で読み聞かせをすることが可能です。

委員：ありがとうございます。あと2点だけですけれども、阿山から移ってきたということで、利用数を、やはりどれだけ利用される方が増えているのかを、しっかりリサーチと結果を出していただきたいということと、伊賀支所の会議室でいいので一度くらい向こうで協議会をして、協議会のみなさんで説明いただきながら図書館を見るということも必要かなと思います。やっぱり図書館って市民のための物なのでやはり市民に納得していただけるような運営が必要だと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。

事務局：今、委員が言われたこと、私も図書館の需要がどれだけあるのか大変気になっています。図書館、館長も含めて私たちも、時々、いがまちの図書室に行っています。日曜日の朝の10時頃でしたが、学生が勉強していました。高校生だけではなく中学生も、1階でも2階でも勉強していました。親子連れもあり、たくさんの方が来られていて、大変にぎわっていました。いがまち図書室の司書にも聞きましたが、とても遅くまでもいろんなことで来られる方がおり、利用客が多い状況です。司書2人、男性が2人いまして、カフェの仕事もしていますが、本の貸出、返却業務をしながら来られた人に館内の説明もしていました。苦労していることも聞き、床がタイル張り掃除が難しく、きれいにするのも滑ってはいけないので、十分に気をつけて掃除していると聞きました。業務にあたられてい

る方々の苦勞も聞き、市の図書館でもあるので引き続き市民に利用いただけるようお願いをしてきました。また、西柘植地区住民自治協議会会長とも会いましたが、今、駐車場を工事していますが、車が停められないくらいの夜遅くまで賑わっていると聞きました。図書館だけではなく、住民自治協議会も新しい図書館になり、たくさんの方が来られ、地域としても活気がでてきてよかったと聞きました。地域として、図書館として、十分機能していることを実感として掴んでいますので、今ご意見いただいたことはDMG森精機とも話をしながら、司書と詰めていって進めたいと思っています。

会 長：はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委 員：よろしくお願ひします。私、まだ新しい図書館見に行けていないので、今日帰りにでも寄ろうかなと思っています。1点質問があります。市の図書館の蔵書1万少しとDMG森精機の蔵書1万冊と聞いていますが、DMG森精機の用意された専門書は、今後入れ替えていく予定や考えがあるのでしょうか。入れ替える予定があるならば蔵書の選定に市はある程度絡んだりできるのかについてお伺ひしたい。

事務局：はい、ありがとうございます。DMG森精機株式会社の図書館の蔵書は企業の方で選書しており、今後入れ替えるかどうか、入れ替えるときに市の意見が言えるかどうかは、市は意見を言う予定はありませんし、独自でされるように聞いています。

委 員：ありがとうございました。

会 長：はい。他の方がいかがでしょうか。DMG森精機の蔵書の説明に関してはこのパンフレットの中にありますので、何もDMG森精機の企業に関わることだけではないと思います。特にこの「新たなる知」というのはなんか非常に面白そうな感じではあると私は思いますし、この前ちらっと見させてもらった感じでは、結構面白そうな本が並んでいました。いかがでしょうか。多分こうして企業と一緒にやって公共図書館を開設するというのは全国的にも珍しいタイプだと思いますので、今後に期待したいと思います。いかがでしょうか。特になければ次の議題に移ってよいでしょうか。では次の議題、(3)の方に行ってください、「阿山図書室の対応について」を事務局の方説明お願いします。

—事務局より資料(3)「阿山図書室の対応について」を説明—

会 長：はい、ありがとうございます。以前、我々協議会の方で新しい体制について論議をして、方向が出来上がっている、それに基づいて少しずつ進めていく予定で動いているわけですけど、残念なことに時間が早まったというふうに考えていただいて、その結果としてこの阿山図書室の現状が変わっているというわけですが、ご意見ございますか。いかがでしょうか

委 員：すみません。

会 長：はい。

委 員：阿山図書室も、これからなくなる大山田図書室も、なくなったいがまち図書室も私たちが読み聞かせボランティアが本を探すにはとても素敵な図書館でした。それぞれ司書の思いが詰まった図書室の思いをくみ取って新しい図書館は思いが伝わるような図書館にぜひともしていただきたいと思います。なくなるのは残念です。以上です。

会 長：市民にとってもね、図書館が少しずつなくなっていくと大変だろうと思います。それをカバーするために移動図書館というのを積極的に活用する流れになるわけですが。いかがでしょうか。

委 員：いいですか。

会 長：はい、どうぞ。

委 員：移動図書館で対応するということですね、1つ聞きたいのは阿山の住民自治協議会との対話の中でどのような意見がでたのかを聞きたい。あとは電子図書サービスを阿山図書室の閉館関係なく進めていくことが市民の利益になると思いますので、この後の本館のところでも話題にしたいと思いますが、この電子図書を有用に使い、ネットさえあれば家で図書館に行かなくても見られるとか、そういう勢いのあるものを構築していただけたらありがたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

事務局：ありがとうございます。住民自治協議会の意見ですが、阿山には4つの住民自治協議会がありまして、4カ所へ説明に行きました。その中では、現在の阿山図書室は場所的にどうしても車に乗って行かなければならないので、なくなることに関しては反対の意見はありませんでした。移動図書館を各市民センター単位でまわらせようと思っていますので、それに関しては近くまで来るので、「近くなったいが、住民の意見を決めるときには聞いてください」という意見がありました。電子図書ですが、にぎわい忍路回廊の事業で令和6年の4月に電子図書の運用開始が予定されており数か月後には始まる予定です。現在選書の作業を行っているところです。利用開始が始まった後は、図書利用カードをお持ちの方は、家でインターネットが使える環境とかスマートフォンを持っている方は自動的に使える運用をしたいと思っており、現在その準備中です。

委 員：ありがとうございます。

会 長：いかがでしょうか。移動図書館事業は準備されているのですか。予定は。

事務局：移動図書館はですね、現在方向性を説明してまして、令和6年度で準備をしたいと考えております。令和6年度で車両購入のための予算も準備したいと考えています。

会 長：阿山の方が先行でサービスをするということ。

事務局：はい、移動図書館は当初、令和8年4月新図書館オープンと同時に大山田、阿山、島ヶ原で運行開始を予定していましたが、阿山図書室が先行して閉めることになったので、阿山地域に限定して7年度から、1年早く移動図書館を運行する

方向です。

会 長：移動図書館を増やすと人が要りますね。その辺のことは考えていますか。

事務局：はい、3地区の運行開始になりましたらほぼ毎日運行するので、専属で運転手の手配が必要になりますし、阿山地域だけ先に運行開始するときは、運転手は毎日行くわけではないので、今検討中です。車両の購入ができれば、地区市民センターだけでなく、違うところ、例えば読み聞かせの会の会場へ出かけるとか、動けるメリットを活かしたいと思っています。

会 長：はい、ありがとうございます。新体制が一部早まると、それが今日のテーマですが。他の方がいいですか。かなり昔のことですが、いがまちが小さなトラックに本を積んでやっていたよ。あのイメージからするとかなりこの移動図書館期待できますよね。

事務局：はい、トラックの荷台が書架になっているイメージです。冊数は約千冊ぐらいは積めるものを用意したいと考えています。

委 員：ぱかっと開いたら本棚になっているという。

事務局：はい、イメージですが、JAが金融機関に出張サービスをしている規模の大きさの車を予定したいと考えています。

委 員：屋外で本のやり取りをする感じですか。

事務局：はい、そうです。

会 長：移動図書館ということは待っていれば本が来るという形になりますし、本館の持っている本も借りてきてくれるということもできますよね。

事務局：はい。配送サービスも併せてできますので、図書室を閉めることで窓口がなくなります。少しでも不便のないようにしたいと考えています。

会 長：はい、ありがとうございます。県内の移動図書館を持っているところ、どこがあるかな。

委 員：そうですね、あまり移動図書館をやっている市の図書館って、どうしても移動図書館自体が今減ってきているというところもあるので、県内でも正直そんなに例がぱっと出てこないのですが、たぶん1館か2館くらいだったと思うので、ぜひ新しいサービスとして今後定着してくれるといいなと期待していますし、うまくいったら、他市にも広まっていくかもしれませんので、本当にうまくやっていたけるといいなと思います。

会 長：ありがとうございます。

委 員：1点質問してもよろしいですかね。まだ正式に阿山の方で動くのも1年以上先ということなので、しっかりと計画はまとまってはないと思いますが。移動図書館でできるサービスは例えば貸出返却、そこでカードを作れるのかとか、今まで阿山図書室でできていたこととか、中央図書館でできることのどのくらいのことを可能にしていくように考えていますか。

事務局：ありがとうございます。貸出、返却はもちろんですが、登録カードの作成やお届け先の住所変更等の受付もできれば可能にしたいと思っています。

委員：ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございます。この他にいかがでしょうか。では議題の（３）については以上でよろしいでございますでしょうか。では議題（１）に戻りまして伊賀市新図書館の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

―事務局より資料（１）「伊賀市新図書館の進捗状況について」を報告―

会長：はい、ありがとうございます。ほぼ順調に進んでいると考えていいですね。はい。ではいかがでしょうか。新図書館の状況について。ご意見をお願いします。どうぞ。

会長：今配ってもらった資料は市議会の全員協議会の資料ということで。いかがでしょうか。何かございますか。

委員：ないようでしたら。

会長：どうぞ。

委員：何点か質問します。私は 2015 年から新しい図書館について、少しでも使い勝手のよい、私はお話ボランティアをしていますので、子どもファーストという視点で、要望書も去年の 10 月 14 日に市長に提出をしました。そんな中でこの新図書館に対してワークショップやいろいろなところでできるだけ声に出して言ってもらったら向こう側に伝えますという形で受けていただいて、もう最終段階で、来月から工事が開始するわけですが、今まで関わった図書館の方はこの新しい新図書館で今の図書館よりもとっても魅力的で使い勝手が良くてこんなところが自慢できるところをぜひとも声に出して言っていただきたいと思います。お願いします。

事務局：ありがとうございます。市民ワークショップや要望書等をいただき事業者のSPCにぎわいパートナーズと協議を重ねてきて基本設計の方はもう決まってきました。現在、実施設計をしている最中です。図書館の機能としては現在の図書館より充実したものになると考えていますし、今後も運営のことにに関してSPC事業者と話し合いを進めていきますので、継続して話をしたいと思っています。

委員：リノベーションですので、新築ではないのでなかなか思い通りにはいかない。文化財ですのでとても制限がある中で苦勞をしているのはわかるのですが、やはり図書館の売りというか、ホテルとの複合施設ですので、無理があるのは十分承知していますが、やはり子どもたちが来てわくわくするような非常に伊賀市の図書館人口は少ないので、その図書館人口を増やすためにも新しい図書館に移動する。先ほどいがまちの図書館来館数を言っていました、良い伊賀市の図書館ができたなど小学生、中学生、高校生が外に出た時、「伊賀市の図書館はとても素敵やで、いっぺん遊びにくるか」というとても誇れるような図書館を願って私たちは今まで取り組んできたのですが、司書としてここは絶対おすすめやと今の図書館にはないところやとかここら辺は使い勝手がいいよとか魅力的やというのを

ぜひ聞かせていただきたい。

事務局：現在のところ例えばスペースの問題です。現在の図書館よりも冊数は増えていく予定です。現在スペースの問題で座る閲覧席がたくさんありませんが、そこは、充実した数を確保した計画をしています。くつろぎ、滞在型ということで今までの既存の図書館は静かなところで静かに本を読むとか、静かに勉強をするというイメージですが、そういう場所も必要なので確保していますが、にぎやかな場所、にぎわい忍者回廊という全体の事業なので、静かなスペースも保ちながら、にぎわいのある場所も複合施設として作っていくので、観光にも来てもらえる図書館を目指していますので、現在の図書館よりはたくさんのご利用を見込んでいますし、もっともっとたくさん来てもらいたいのでPRにも努めていきます。

委員：時間設定は何時までです。ちょっと細かいことも質問したいのですが。大丈夫ですか。時間設定。

事務局：特に時間設定は決めていませんので。

委員：ありませんか。具体的というか、子どもと読書を繋ぐ視点があまりちょっと見えてないというか、私は先ほども言ったようにお話ボランティアですので、資料内観パース4のところを見ていただけたらと思いますが、先程、いがまちの新しいところの書棚は既製の決まりきったサイズと言われて、一番初めのところもそうですけど。例えば物差し持ってきたのですが枠が決まっていると、幅が決まっていると書いてあって、例えば2ページも書架の高さは1,540mm。これはまあ低いというか視点が行き届くっていう利点かなと思うんですけど、1段が347mmっていうことは美術書とか大きな本は入らないのではないですか。

事務局：大きなサイズの本も対応可能な書架にすると聞いていますので、大きなサイズの本は大きなサイズの書架に。

委員：本のこういうスペースが確保できるってということですか。

事務局：はい、そのように聞いています。

委員：一覧ではだいたい例としてあがっているというか。

事務局：そうですね。

委員：これが全てではない。

事務局：はい。イメージですのでこんなふうになりますよということで見ていただけたらと思います。

委員：わかりました。まあ坂倉建築ですのでコンクリート打ちっぱなしという特徴があるかなと思うんですけど、入ってきたときになんかこういやらしさっていうか、子どもがわくわくするような、大人もわくわくするような、それはまたこれからの運用面でいろいろ考えていただくことに期待して。そうしたら内観のパース4です。先ほど教育長がいがまちの床、1階のタイルが滑りやすいというふうな声があったと。

事務局：滑りやすくない。

委員：手入れが大変。

事務局：土が入ったら滑りやすくなるので、その砂利をとらないといけないと。

委員：メンテが大変。

事務局：掃除するのが大変。

委員：失礼いたしました。

事務局：滑りやすくはないです。

委員：滑りやすくはないんですか。

事務局：そこに砂利が入はいると滑ったら危ないので掃除をするんです。

委員：メンテが大変。

事務局：そういうことです。

委員：はい。でね、特に4ページを見てきたんですけどやっぱり床はオリジナルタイル複製って書いてありますよね。これ坂倉準三のタイルを模写しているということですか。

事務局：はい。

委員：複製ってことは。

事務局：そうですね。はい。

委員：子どもの床がタイルっていうのはあまりいろいろな図書館に行っても、あまり見たことがなくて、やっぱり床のタイルですと足音というか転倒しやすいですし、ちょっと冷たいイメージですし、ベビーカーが通るのでベビーカーがこう妨げになる音をだすというか、杖の音とかがとても気になるのではと。ここを通過して、ずーっと奥に来て、何度も何度も言いましたが、この子どものおはなし室は変わらなかったんですが、ここにたどり着くまでにとっても長い距離があるので、そうしたらカーペットの方がよいのではと、ベビーカーは、でも、ベビーカーは、私、前の議事録を読んだんですが、ベビーカーは中まで押しでは行けないんですか。

事務局：中までというのは、おはなし室までですか。

委員：おはなし室まで。

事務局：行けます。

委員：行けますか。

事務局：はい。

委員：ベビーカー置き場はあるけど置きたい人はそこに置いたらいいし、行きたい人はそこまでずーっと行ってよいということですね。

事務局：行ってもらって構いませんし、この児童コーナーの児童開架スペースの中へベビーカーを押し入って、本を選ぶのも構いませんので、入口のところのベビーカースペースに置いて中へ入らないといけないということではありません。

委員：まあ、お母さんは若いからちょっとぐらいいいのか、とも思ったりもしますが、やはり複数の子どもを連れて一番奥のおはなし室まで行くエネルギーとそれからこのトイレが、これはもう言ってもどうしようもないので、設計上の部分はもう無理かもわからないんですが、例えばクッション性のある床にするとか、

よく日曜日なんかはお父さんも割と子育てをしている方が多くて、お父さんが寝そべりながら子どもと一緒に絵本を読んだりする光景がとてもほほえましいんです。ですから、ぜひそういうふうなのをイメージできるようなところにしていただきたい。この書架も特に児童書なんかはサイズも違いますし、大きさも違いますし、縦横とかいろんなサイズがあるので、あんまり規格にこだわらない融通のできる可動式の書庫があると非常に使い勝手がいいのではと思いました。やはり子どもたちがわくわくするような施設に、入るだけでわくわくするような遊び心のあるような施設をと言うと外に遊具があるとかいうふうな形でいつも返されるんですが、実地見学会の時に見せていただいたんですが扉はとても重いし、固いし、非常時にはこんなところでパッパッと子どもを何人も抱えたお母さんが素早く対応できるのかなと思うのと、それからレファレンス。私はこの図書館の司書にとっても助けてもらって本選びとかしており非常にありがたいんです。だからここにレファレンスルームがない、司書はどこにいるのかなとか、そういうふうな視点で、防犯面での見守りとか非常時の連絡経路の誘導とか、そういうのはどうなのかなって。これから若いお母さんやったらいいけど、年寄のおばあちゃんが孫を連れてくると素早く対応できるのかな、なんて、そういうような安心安全って何度も何度も声を聞かせてもらったんですけど、本当に安心安全を実際に運営されたときにくれるのかななんて私が思っているのはそれ。

事務局：ありがとうございます。

委員：そんな形です。

事務局：いろいろなご意見ありがとうございます。子どもが親と一緒にくつろぐようなほほえましい姿がある場所ですね。それが望ましいということその通りだと思います。子どものことに関しては子どものテラスがあるので天気の良い日はテラスへ出ていただいて、一緒に遊びながら本を読んだりもできますし、おはなし室、一番奥になりますが、ここはお話の会をしていないときは解放し自由に使える場所になると思いますので、ここで寝転んだりしながら本を読んでもらえると思います。あとレファレンス室と言っていたきましたが、レファレンスのための部屋というのはありませんけれども、児童コーナーのところにも受付のカウンターがあります、一般書にも受付のカウンターがあります。そちらにスタッフが配置される予定ですので、そちらでレファレンスはしっかりとしていきますので、レファレンスができないというふうな心配はないというふうに考えています。

委員：この子どもの部屋のところのどこがレファレンスになるのですか。

事務局：平面図の、地下1階資料1-5を見てください。児童用のトイレの左側のあたりが児童の受付です。

委員：死角にはならないですか。死角には。

事務局：死角にはならないです。

委員：死角にはならないですか。

事務局：はい。エレベーター降りていただいて。事務室の手前がカウンターになる予定です。

す。

委員：子ども室はそこからはよく見えますか。

事務局：スタッフからですか。スタッフから児童のスペースが見えるかどうかですね。見にくいかもしれませんが、運営スタッフが防犯面には気をつけながら巡回も行きますので、設計はこうなっていますが運営の方では防犯面には細心の注意を払っていただくようになると考えています。

委員：ちょっと割り込んでいいですか。意見をいっぱい言っているのを聞いて意見を言いたくなったので、すみません。外側の建物はある程度専門家の方がされているし、先行事例も見ているので、私的には決めていただいた通りがいいのではないかと思います。本はぐっと増えるということで、お子さんのことを言っておられるんですけど、私自身は少子化っていうところで、やはり自分の年代とか、高校の教員をしているので高校生とかというところにやはり目が行きますので、そういう本の選定に関する市民の意見という内容面はどのように吸い上げるのかを教えていただきたいと思います。

事務局：はい、ありがとうございます。運営面の質問いただきました。選書ですが現在もリクエスト制度があり、リクエストを受けて検討した結果購入するほか、他から相互貸借といまして他の図書館から借り、窓口で借りてもらえるようになっていきます。同様に市民の意見をもらいながら選書は市できちっとした形で行っていく予定です。

委員：すみません、私もリクエストしたりしているんですけど。年間1冊とかですが。大きな、例えば全集をそろえるとか。あまり全集が少ないなと思っているのですが。日本文学の全集、誰かの全集をそろえるとかの大きな指針のようなもの、1冊、2冊ではなく、どのような収集をしていくかという。

事務局：全集をそろえていく計画ということですか。

委員：例えば方向性として児童書がすごく厚いとか。ここのように産業面が厚いとかっていう個性付けという意味で。

事務局：はい、ありがとうございます。公共の図書館、市の図書館なのでいろいろな方に多様な使い方をしてもらえることが大事だと思っています。日本十進分類法に基づいた図書の選書を行い、バランスよく市民や市外の方に使っていただきやすい選書を目指したいと考えています。

委員：すみません。9月24日の日曜日に図書館で行われたバックヤードツアーに参加したんです。その時に2階の貴重書庫のとても重い扉というか。上野図書館が崇広堂からここに来るにあたって、伊賀の貴重書を保管するとても力の入った書庫だと聞かせてもらい、外から、中には入れてもらえませんが、外から見せてもらったんです。そんな立派な、私たちは今の図書館の不自由で使い勝手の悪いことばかり言って、新しい図書館をと言って声に出してきたのですが、そんな立派な貴重書庫があるのだと思って。そうしたら、重厚なとても力の入った貴重書庫よりも、今度の新しい図書館は、さらに強度とか湿度とか安心安全が得られるので

しょうかという。特にこの前に見せていただいて、みなさんが言われることが、ああなるほどと思ったのですけど。お願いします。

事務局：貴重書庫の中の資料を守っていくための対策は先ほど説明しましたとおり、浸水対策はしっかりとしていきます。あとは防虫対策ですね。現在も燻蒸作業を行っていますのでそれも行います。一番資料にとって劣化の原因になる湿度、温度の管理は24時間体制で行いますので、資料はしっかり安全に守っていきます。また、市からも事業者との今後の話し合いの中では資料守ることは最重要案件なので、更に継続して話し合い、確認をしていきたいと思っています。

委員：ありがとうございました。たくさん質問しましたが、とても心強い言葉と受け止めて、新しい図書館に期待したいと思います。ありがとうございました。

会長：新しい図書館は我々が作っていくんだっていうつもりでご協力いただきたいと思っています。いかがでしょう他の方。

委員：あの今の貴重書庫の部分、市民がやはり一番心配している部分がここにあるのと、もう一つはホテルの防犯部分になってくると、この二つがどうクリアされるかにかかってくると思うのですけども。この図書館の話、昔から二転三転四転くらいしているのですが、その途中で、貴重書庫は別のところでという話も一時期あったと思いますが、それはもう考えずにここだけで完結するということ。この辺の市民はやはり桃青中学校が一番丘の上にあるので水に対して一番強いのでそういうところを使ったらどうかとか。もう一つ、この間若い子が言った面白い意見では、中京銀行が空いていますね、ハイトピアの。あそこはとてもすばらしい金庫があるのであの部分に。やはりそういったところで保管できないのかと。そうすれば見たいときにもっと手軽に貴重書庫を閲覧できるようなシステムになるのではと意見をいただいて笑っていたのですが。先ほど私ちょっとデジタルのこと言わせていただきましたが、やはりこの本自体を守るというよりは内容をずっと守っていくという必要があると思うので、早々にこの貴重な資料をデジタルアーカイブという形に、なるべくその作業を進めて行って、それが一番安心に繋がるのではないかとふうに思っていますので、いろいろな考え方あるし、これをちょっと見させていただいて、この地下水位の下に入っているわけですね貴重書庫は。それで一番この市役所の問題になっていた雨漏り、雨漏りしていて雨が溜まるというのが、これのB1階の説明で資料1-5ですね。ここにある機械室が一番溜まるというふうに理解していたのですが。そうしたら、30cmほどしか機械室と貴重資料庫のレベルの差がないということですかね。これB1階のレベルマイナス1,165mmというのですか。これで機械室が一番深いマイナス1,440mmで、確かに一番深いのでここに溜まっていくのですが、どう考えても何かあった時に水はここに流れていくと、それを排水で何とかしようという計画だと思うのですが、そうしたら排水機能が止まった時はどうなるのかとかやはり不安は残ると思うので、前々からの意見に貴重書庫は、貴重な物は違うところで保管するという意見があって、そういう計画があった時もあったと思うので、もう一度、事

業者と意見交わして、なんとか貴重な物が無くならないようにしていただくのと、最悪、無くなってもデジタルで残っていればなんとかなると思うので早々にデジタルアーカイブを始めていただいて。特に伊賀には全国的にも珍しい貴重なものがたくさん残っていると聞いていますので、やはりそちらも至急にちょっとネジ巻をいって同じように進めていただけたらと思いますので。よろしく願いいたします。

会 長：はい、ありがとうございます。

事務局：今の件ですが、心配は貴重書庫が地下にあり、地下水があるのでどうするのかというのはこれまでもたくさん議論がありましたし、どうしていくかについては心配をおかけしていました。先日の議員全員協議会でもたくさん質問がありました。それについては、地下に水が来ないように外の排水をもう一度、施工し直すことと、北側の駐車場の水が庁舎の方に落ちてきているのを北側の駐車場は北側へ水を抜くように変えて、北側の駐車場の排水が入ってこないようにする。地下水位はある程度あるので、貴重書庫は二重の壁にする設計をしています。まず一次防水をして、二次防水として中に間を設けてもう一度壁を作る。一次防水と二次防水の間に空間を空けることで、一次防水が破られても、二次防水で防ぐことができる。二次防水の空間はそのまま水が溜まったままになるので、それは排出するという、二重の防水をすることで貴重書庫は水が入らないように守るという提案をもらっています。それでも万が一の時はどうするのかについては、そこに水が入るとなると外に資料を出す必要もあります。その部分については十分してあったとしても、そういう場合は、火事が起こったら、大きな災害があったらどうするのかという避難と同じように考えてそういう対応マニュアルを作る必要があるだろうと思います。十分そのことについて事業者と連絡を取りどのようにしていくかを詰めておく必要があると思いますので、運営の中で十分な協議をしていくことになると思っています。今の図書館の貴重書庫に入っている資料はここにほとんど全部入りますし、他にももう少し入りますが、伊賀市全体の中からはまずと、図書館だけではなくいろんなところに貴重なものがあります。文化財だと長田の小学校にもたくさん置いてあるので、一度、きっちり整理する必要がありますし、今後、博物館等の建設のこともありますので、貴重資料や文化財を市として、どうしていくのかは図書館だけの話ではなく全体の中で考えていく必要がある。そのことについては、貴重なものをどのようにどこで整理していくのかを十分論議する必要があると思っています。

委 員：近年 100 年に 1 度から、経験のしたことのないことが起こり、記録が変わってくるので、今、160 ミリで計算しているということですけど、もし万が一これを越えた時に、今、言われたように、どのようにここから動かしてどこに保存するのかのマニュアルをきちっと決められたら市民も安心すると思いますのでよろしく願いしたいと思います。あと、3 階の宿泊エリアの防犯はカメラとかで対応していくという形になるのですか。

事務局：現在は防犯カメラの設置と職員が運営の中で巡回等を行う予定と聞いていますが、市民が防犯面でとても心配をしていることは私たちも SPC 事業者も理解をしていますので、今後またどのような形で防犯対策をするのか確認していきたいと思います。

委員：ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございます。図書館行政だけでなく文化行政という視点が必要になるということですね。この伊賀市全体のことと考えていくという面をこれからも加えていきたいと思いますが、いかがでしょうか。他の方ご意見ございますか。この新図書館に関しては、これから我々はこういうふうにしていきたいんだというふうに、いろいろなことに関わらないと、みなさま方のご意見をどんどんこの場に出していただきたいと思います。他にも何かございますか。

委員：せっかくなので。こういった新しい宿泊施設が同じ建物の中にある図書館というのは、今まで確かホテルと隣り合っているとか繋がっている図書館というのは何件かあったと思うんですが、同じ施設の中にあるというのはとても珍しい図書館になると思うので、すごくどうなっていくのかは楽しみにしたいと思っています。ただ建設も始まっていませんし、具体的なサービスの中身も詳しく詰めているところではないと思いますので、ぜひ、このホテルに泊まるからこそというサービス、もちろん市民の方に向けてのサービスも大事だと思うんですが。宿泊者の方に、人を呼び込まないといけないので、宿泊者に対するサービスをまた考えてほしいなというのと、あとはどのようなサービスを行うのかを、またワークショップじゃないですが、いろいろなところで意見を聞く場を設けられると思いますので、いろいろな意見を聞いて、今までのサービスも継続しつつ、今までにない新しいサービスもぜひどんどんやっていただくと嬉しいと思います。

会長：はい。期待しているという感じですね。はい、いかがでしょうか。特にあとはっというのはいかがでしょうか。ないようでしたらこの議題につきましては現状のどんどん進めていきますということにしまして、これ以外の議題ありましたかね。あと一つあったな。資料の最後の方について。LINE の話。

—事務局より「伊賀市上野図書館 LINE 公式アカウントの開設について」を報告—

会長：はい、ご質問ございますか。LINE に関して。LINE はみなさんありますか。私はまだ使ったことがないので。機会がありましたら使わせていただいて、活用していただきたいと思います。いかがでしょうか。特になければ今日の議会を終わりたいと思いますが、事務局の方から何か付け加えることありますか。

事務局：ありがとうございました。最後の教育長の方からひと言ご挨拶を申し上げ上げます。

事務局：会長、副会長どうもありがとうございました。また委員の方々ご検討いただいて本当にありがとうございました。意見を出していただきましてありがとうございます。

ます。いがまちの図書館については大変にぎわっているという状況で、いろいろ課題もあると思います。ご意見いただきましたが、大きい本が一番向こうの隅の下のところにあるのは何とかしなければと同じように私も思いました。順次それは改善していけると思いますし、また、司書の方も始まったばかりで、コーヒーのことに掃除もしないといけない、いろんなことをしていただいているし。朝の9時から夜の9時まで開いているということもあり、ずいぶんご苦勞もいただいているようです。そのようなことも聞かせていただきましたし、地域の方々も今まで図書室に来なかった方、高校生も、中学生もそこで勉強しているということでも多少暗いという声もありますが、2階のところにいる子に大丈夫かなと思い聞いてみたら「ここがいいんです」ってことで、2階の暗いところはスタンドもついていましたし、いろんなところに工夫しながら運営をしていただいているような状況です。私たちもより良いものに、市としての意見も言いながら進めて行きたいと思えますし、当然、南の青山のアオーネにある図書館についても引き続きしっかりとしていけないといけないというふうに思っています。それから今ご意見いただきました伊賀市の新図書館の進捗状況ですが、これやはりですね、市がお金を出すのですがPFI事業者がいろんなことを考えながら、進めていきますので、私たちも直接市がやるものでしたらここ変えますよとか直接言えるのですが、事業者に要望を伝えて事業者で検討をいただきながらということなので、ワークショップここに入り込みますので、その辺についてもご心配をいただいているという点、それからワークショップでもご意見をいただいている点、その部分も事業者でいろいろ考えて今ここにある設計がやっと出てきたというところなんです。今日もご意見を委員さんからいただきましたので、それについても事業者ともう少し詰めていきながら、まだ中の家具や椅子のこと等いろんな中身については今後担当と進めていくことになると思いますし、この絵が全て決まったわけではないので、十分その辺も検討をしたいと思っています。ただ設計の部分はほぼこれで行きますので、設計はもう変えることは難しいと思います。中の運営や内装や家具については少しまだ、私たちも十分意見を出していきたいというふうに思っています。ここでご意見もたくさんいただき、いい図書館にしていきたいと委員さんみなさん思っていたらご意見もいただいていると私たちも思っていますので、その意見も、出来るものと出来ないものがあり、申し訳ないですが、できるだけ叶えながら進めたいと思っていますので、今後もまたご意見を聞かせていただきながら、進めて行きたいと思っております。デジタルアーカイブも進めて行かないといけませんし、泊まる図書館であって、泊まる人イコール悪い人ではなくて、泊まる人にも図書館の利用者となってほしいという意見もいただいたので、泊まる人イコール犯罪者みたいなことではなく、泊まる人も理解していただきながら利用をしていただく。そういうことについて十分ですね、安全面考えながら進めるということになると思いますので。にぎわいの施設というのはいがまちの図書室が証明していますし、各地のいろんな図書館が駅前にできていること

考えると、図書館イコールたくさんの方が来られる施設だということを、私たちもそのようになればいいですし、伊賀市の人それから近隣の人それから観光客も含めて人が集えるような図書館にしていきたいと思っていますとことです。今後またいろんなことが決まってきたらまたお示しをさせていただきますので、その時にはみなさんにも集まっていたきながら、今のようなご意見をいただいてより良いものにしていきたいと思っていますので、今日は貴重なご意見をいただきまして本当にありがたく思っております。本当に長い時間でしたけども本当にありがとうございました。

会 長：では今日の第2回図書館協議会は終了したいと思います。ありがとうございました。